

いこいの村

八木義博

題字 栗の木寮

2016年(平成28年)10月20日発行

第413号

発行責任者

いこいの村聴覚言語障害センター

所長 岩本 幸子

編集

いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

敬老の日 ご長寿おめでとうございます



梅の木寮ではお二人が
百寿のお祝いを受けられました



いつも元気に
暮らしています！



綾東子ども園の皆さんより

9月8日いこいの村では、梅の木寮87名、栗の木寮21名の入所者の長寿と健康をお祝いし、敬老祝賀式が開催されました。節目を迎えられた方々が来賓の皆様より祝辞と記念品を受けられました。

今年は2名の方が百寿(100歳)を迎えられました。ご家族に寄り添われ、表彰を受けられたそのお顔は、とても晴れやかでした。

梅の木寮・栗の木寮の入所者からは、暮らしの様子について「皆でわいわい楽しんでいます」と笑顔で元気に報告がありました。

当日はあいにくの台風で来られませんでしたが、綾東子ども園の皆さんからも、とてもかわいらしいメッセージをいただきました。

来年も皆さんとお祝いできることを願っています。

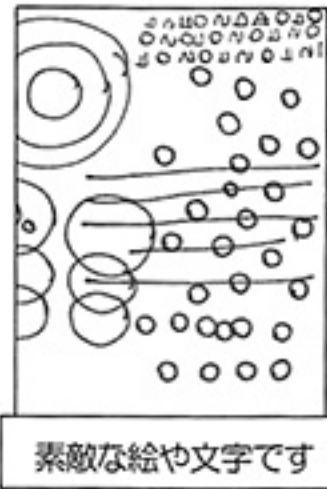
(梅の木寮 岸本 健児)

とし
 年齢をとるのは素敵ないじぶですわ

〜栗の木寮 寺岡義雄さん〜

栗の木寮で生活されている寺岡さんは、今年喜寿(77歳)を迎えられます。リサイクル班では缶つぶしの作業を担われています。

寺岡さんとの「コミュニケーション」は、身振り・手振りです。いじからん話しかけに、嬉しい時は、「ニッコ」と微笑みを返してくれます。



素敵な絵や文字です

転倒・骨折・入院

昨年末、廊下で転倒され大腿骨頸部を骨折されました。転倒の当初は痛みの訴えがなく、脳梗塞かと思い救急車を呼び、レントゲンの結果、よ

うやく骨折していることが判りました。

入院中は、歩けない自分の状況に、辛い思いや不安な思いがあったと思います。そんな時は、自分のスケッチブックに、好きな幾何学模様の絵を描くことで、気持ちを落ち着かせて過ごされました。面会や付き添いをしたご家族や支援者(地域の家政婦協会などの協力も得ました)は、少しでも本人の不安な気持ちを取り除こうと心掛けました。

早く治って欲しいというご家族や仲間・職員の願いのもと、手術は成功し、ふたたび寺岡さんの歩く姿を見ることができるようになりました。

退院後の不安

しかし回復していくと同時に不安もありました。又、

転倒したら、さらに重症になり、障害が残ってしまう心配があったからです。

「寺岡さんを転倒させない」職員はもちろん、栗の木寮の仲間の全体の目標でした。

走り出そうとする寺岡さんを仲間が何度も止めてくれました。つまづくものや滑りやすいもの、椅子の高さまで職員で検討しました。いつしか寺岡さんの傍には、誰かが寄り添い見守るようになりました。

退院から半年以上たった今は、作業に戻り、元気になるれ、転倒やそれに付随する不安は、ほとんどなくなりました。

喜寿を迎えられ、敬老会で皆さんに祝福される時、寺岡



しっかりした足取りで喜寿のお祝いを受けました。

さんが自分の足でしっかり歩いていけたのは、本人の「治りたい」という気持ちと共に仲間の優しいサポートがあったからでしょう。栗の木寮は「one for all, all for one」(一人のための)。みんなはみんなのために、みんなをとるのは素敵なことと声をそろえて言いたいですね。

(栗の木寮 小畑 誠)

介護のワンポイント

包括支援

センターとは

綾部市東部地域における介護相談の最初の窓口となるのが、『綾部市東部地域包括支援センター』です。綾部市が運営を委託している公的な相談窓口です。生活されていると様々な困ったことが生じますね。

たとえば、①「介護のこと」

悩みがあるが誰に相談していいのかわからないなあ、介護保険やサービスの情報を知りたい等。②「身体のこと」元気がうちから取り組める介護予防に関する情報を知りたいなあ、足が弱ってきたみたい、身体を動かせるような場所がないかなあ、お風呂に入りにくくなってきた等。③「お金のこと」最近物忘れがひどく、お金の管理に自信がなくなってきたなあ。振り込め詐欺に引っかった等。④「近所のこと」〇〇さん、最近畑で見かけないなあ、買物も...等。

こんな時は、365日、24時間「ご相談ください」。

(綾部市東部地域包括支援センター 福嶋 敬子)

連絡先

TEL: 099-1242

綾部市十倉名畑町29-1

綾部市東部地域包括支援センター

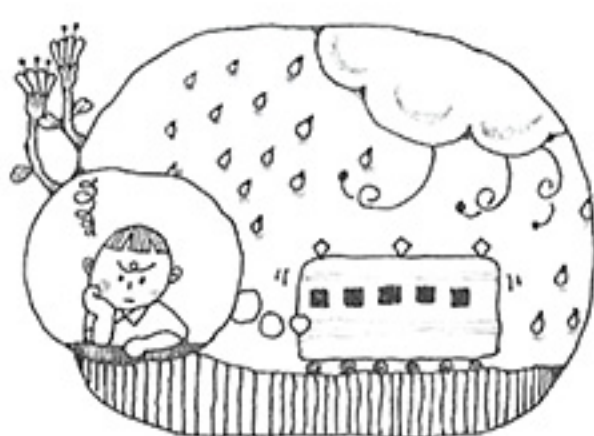
TEL: (21) 5295

FAX: (21) 5296



いろいろ

4月から梅の木寮で働き始め、社会人として新生活がスタートし、早くも半年が経ちました。学生の頃と現在とは時間の流れが大きく変わり、その変化にまだ慣れずにあります。その日々の中で感じたことを紹介します。



9月中旬に直撃した台風で...

先月、二連休で実家に帰りました。綾部に戻る日に特急

電車に乗ろうと駅に着くと来る予定の電車が台風でストップしてしまいました。待ち時間も含めて、2時間ぐらいその場に立ち往生してしまう羽目...

周りを見渡すと目に入ってくる情報が全くなく、アナウンスに聞き入っている人々をただ、見つめるばかりでした。たまたま父が見送りに来てくれたので良かったのですが、聞こえない私にとってはアナウンスの内容が文字情報化されず大変不便だと感じました。入ってくる情報量に聞こえる人と差があるというのは、配慮が不十分だと感じました。今回のことで、社会全体の配慮が改めて必要だと実感しました。

駅での情報保障として

駅では、電車に乗る前は遅延情報が掲示板に表記されます。しかし、ホームに入った後は音声のアナウンスのみなので、文字での情報も聴覚障

害者には必要です。そして、乗車する電車内にもアナウンスと同じ内容の情報を電光表示板でお知らせする配慮がほしいと考えます。

新幹線には、車両の前後の電光表示板にいろいろな情報が流れています。在来線にも同じものがあると、アナウンスが聞こえなくても安心して電車を利用できます。



遅延情報を伝える電光掲示板

聴覚障害があっても、安心して電車に乗ることができるよう、そんな社会にしていきたいです。

(梅の木寮 篠田 翔子)



いこいの村聴覚言語障害センター
高齢福祉部長 今中 智子

私は京都府災害派遣福祉チームの一員として益城町の避難所に派遣されました。福祉の専門職の視点で避難所・避難者を支援するためです。

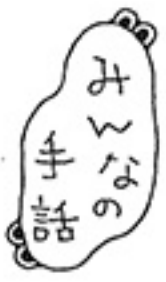
「屋根があるところでは怖くて眠れない」と車中泊を続ける人、「一緒にいないと子供を守れない」と子供を登校させられないお母さん、避難所生活で体調が悪化している人などさまざまな方の相談に乗り、全国から派遣された医師や保健師、栄養士などとチームで困りごとを解決できるように努めました。

帰京時には町や県の職員さん、避難者の方から「京都で災害が起こった時は必ず私たちが一番に支援にかけつけます」と言っていたくださ

た。

派遣を通して感じたことは
①支援者(町職員、県職員)も被災者であることを理解して支援すること、②自分ができる支援を押し付けるのではなく、相手がしてほしい支援をすることが大切だということです。

災害はいつ起こるかわかりません。そのために日頃から近所と助け合える関係作りをしておくことが大切です。またいこいの村として災害時に地域の皆さんの福祉避難所となるために平時の準備を進めていきます。



＜助ける＞
親指を立てた左手の後ろを右手のひらで軽く後押する。



＜災害＞
親指と小指を立てた左手の甲を前に向け、その上を右手3指で「く」の字形を描く。

災害支援 ＜災害＞＋＜助ける＞

◆「ご寄付」は9月受付分です。

鳥取市民生児童委員協議会 様 鳥取市 梨

TEL : 0773-40-1260 FAX : 0773-40-1261